



# 市議会だより

平成31年

## 第83号

2019.1



■発行：富良野市議会 ■編集：議会広報特別委員会 [富良野市弥生町 1-1 TEL39-2322]  
■ウェブ <http://www.city.furano.hokkaido.jp/shigikai/>



山部老人クラブ協議会新年の集い



富良野市成人式



富良野消防出初式



東山新年交礼会

平成30年  
第4回

## 定例会

12月5日~12月18日  
(14日間)

### 主な内容

- ・年頭にあたって…………… P 2
- ・議決結果…………… P 3
- ・一般質問…………… P 4~8  
9名の議員が市政全般について質問
- ・委員会報告等…………… P 8~11  
総務文教委員会報告  
市民福祉委員会報告  
経済建設委員会報告  
議会活性化推進特別委員会報告  
議会運営委員会報告  
決算審査特別委員会報告
- ・決算審査特別委員会で行われた質疑…………… P 12
- ・議会報告会・可決された意見書…………… P 13
- ・議会日誌・編集後記等…………… P 14

# 謹賀新年

## 年頭にあたって

富良野市議会議長

日里 雅至



新年明けましておめでとうございます。  
 市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい平成31年の新春をご健勝にてお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、議会活動に対し皆様のご理解とともに、温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は融雪による河川の越水、春先の長雨、夏の猛暑、連続して発生した台風、そして胆振東部地震とブラックアウトの発生など市民生活、富良野圏域の経済にも多大な影響を受けました。

また、本市に限らず地方都市を取り巻く環境は少子高齢化、人口

減少、公共交通JＲ問題、子育て・介護・福祉、地域医療など課題が山積し、加えて地方公共団体の漸減など行政運営も厳しい状況にあります。

富良野市議会と致しましても、果たす役割と責任を全うし、課題解決に真摯に向かい合い、創意工夫し更に安全で安心な活力ある街づくり、市民生活、福祉の向上を目指し議員一同全力で取り組んでまいります。

市民の皆様をはじめ関係機関のご指導ご協力をお願い申し上げますとともに、新しい年が市民の皆様にとつて素晴らしい一年になることをご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



# 本会議等の開催状況

◆平成30年1月から12月までの本会議、常任・特別委員会等の開催状況をお知らせします。

### ■本会議の開催状況

区 分		会期日数	会議日数	区 分		会期日数	会議日数
定例会	第1回 (2/28~3/19)	20	6	臨時会	第1回 (1/29)	1	1
	第2回 (6/18~29)	12	5		第2回 (5/23)	1	1
	第3回 (9/11~26)	16	4		第3回 (11/29)	1	1
	第4回 (12/5~18)	14	4				
	計	62	19		計	3	3

### ■常任委員会等の開催状況

区 分		開催日数	区 分		開催日数
常任委員会	総務文教	17	特別委員会	予算	4
	市民福祉	27		決算審査	3
	経済建設	20		議会広報	17
				議会活性化推進	10
				新庁舎建設	6
計		64			
各種会議	議会運営委員会	15	計		40
	議員協議会	3			
	代表者会議	16			
	計	34	総計		138

## 平成30年 第4回 富良野市議会定例会 議決結果表

平成30年12月5日～12月18日(14日間)

議案番号	事 件 名	議決月日	議決結果
(30年第3定) 認定第1号	平成29年度富良野市一般会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第2号	平成29年度富良野市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第3号	平成29年度富良野市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第4号	平成29年度富良野市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第5号	平成29年度富良野市公設地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第6号	平成29年度富良野市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第7号	平成29年度富良野市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第8号	平成29年度富良野市水道事業会計決算の認定について	12月5日	原案認定
(30年第3定) 認定第9号	平成29年度富良野市ワイン事業会計決算の認定について	12月5日	原案認定
議案第1号	平成30年度富良野市一般会計補正予算(第7号)	12月18日	原案可決
議案第2号	平成30年度富良野市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	12月18日	原案可決
議案第3号	平成30年度富良野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	12月18日	原案可決
議案第4号	平成30年度富良野市水道事業会計補正予算(第2号)	12月18日	原案可決
議案第5号	平成30年度富良野市ワイン事業会計補正予算(第1号)	12月18日	原案可決
議案第6号	富良野市墓地使用条例の全部改正について	12月18日	市民福祉委員会付託 継続審査
議案第7号	富良野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例の一部改正について	12月18日	原案可決
議案第8号	富良野市立へき地保育所設置条例の一部改正について	12月18日	原案可決
議案第9号	富良野市地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく固定資産税の特別措置に関する条例の一部改正について	12月18日	原案可決
議案第10号	指定管理者の指定について(富良野演劇工場)	12月18日	原案可決
議案第11号	指定管理者の指定について(富良野市ダイサービスセンターいちい)	12月18日	原案可決
議案第12号	指定管理者の指定について(富良野市立養護老人ホーム寿光園及び富良野市ダイサービスセンターやまべ)	12月18日	原案可決
議案第13号	指定管理者の指定について(富良野市地域福祉センター)	12月18日	原案可決
議案第14号	指定管理者の指定について(富良野市女性センター)	12月18日	原案可決
議案第15号	富良野市固定資産評価審査委員会委員の選任について	12月5日	選任同意
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	12月5日	適任
意見案第1号	日米物品貿易協定交渉に関する意見書	12月18日	原案可決
その他会議に付した事件	発議 議員の派遣について	12月18日	決定
	所管事項に関する委員会報告及び都市事例調査報告		
	・事務調査報告(総務文教)	12月5日	継続調査
	・都市事例調査報告(総務文教)	12月5日	報告済
	・事務調査報告(市民福祉)	12月5日	継続調査
	・事務調査報告(経済建設)	12月5日	継続調査
	議会活性化推進特別委員会報告	12月5日	報告済
	議員の派遣に関する報告	12月5日	報告済
	監査委員報告		
	・例月出納検査結果報告(平成30年度8月分～10月分)	12月5日	報告済3件
	議会運営委員会報告	12月18日	報告済
	閉会中の都市事例調査について(市民福祉・経済建設)	12月18日	許可2件



※一般質問の文責は質問者にあるものとして、質問・答弁の要旨を掲載しております。

## 岡野 孝 則

〔民主クラブ〕

### スポーツ・文化施策の現状と次期総合計画について

**問** スポーツ及び文化振興に関する事務が機構改革で市教委より市長部局に移管され約3年経過するが、この間の検証と総括、市教委と市民生活部の連携はどう図られてきたのか。

**答** 当初懸念されていた小中学校との連携、文化会館、公民館の事業分離による支障とか、文化スポーツ団体と社会教育団体との運営の連携において不慣れな点もあったが、現在は問題点を解消しながら運営している。

**問** スポーツ基本法において審議会を設置し、広く住民の意見を取り入れる事が必要と思うが設置の考えは。

**答** 審議会設置においては、体育協会、文化協会において協議いただいている。今後広く市民からの意見要望等において次期総合計画に盛り込んでいきたい。

**問** 昭和49年に建設されたス

ポーツセンター等の改築計画は。  
**答** 耐震診断・耐震改修を行うことで計画していたが、バリアフリー化など十分な改修が出来ないことから次期総合計画で建て替えを検討していく。

### 学校教育中期計画について

**問** 知育の木・情意の木・健康の木で目標で成果と課題は

**答** 全国学力状況調査の結果では、小6の国語と理科で全国平均正答率と同等。算数が全国平均を下回る。中3は、5教科全て全国平均を上回っている。体力は、小5・中2において全国を上回っている。今後は、自らの未来や社会を拓く「生きる力」を育む教育が重要である。



昭和49年に建設されたスポーツセンター

## 佐藤 秀 靖

〔ふらの未来の会〕

### 観光行政について

**問** 現在策定中の次期観光振興計画（案）の考え方は。

**答** 前計画は農村観光都市を指して策定したが、これに加えて次期計画では顧客中心の考え方や住民生活の質を高める仕組み作りを盛り込み2030年における本市観光の有るべき姿を策定している。

**問** 観光政策推進には市民の理解と協力が必要不可欠だが、いかにして取組むか。

**答** 次期計画は住民生活の質を高める仕組み作りを重点項目としている。市民のホスピタリティやおもてなしの心の醸成を促すと共に、今年度実施予定の「観光がもたらす住民意識調査」の結果を見える化し市民理解を深めたい。

### 市民参加手続き制度について

**問** 本年3月に富良野市市民参加制度調査審議会から提出され

た意見書によると、現在のパブリックコメント手続きにおいては「最終段階の案を公表し意見を募集しているが、その前段階の企画段階での意見募集など市民参加を促す工夫が必要」としているが、見解は。

**答** 市民の関心が高く広い範囲に影響が及ぶ事案については、早い段階で複数の方法により市民参加手続きを実施すると共に、頂いた意見に対し分りやすい回答とするよう努めたい。

**問** 市民参加手続き制度の市民周知は。

**答** 審議会開催、パブリックコメント、意見交換会など複数の手続きを行い、一定程度市民に定着していると認識している。



現在策定中の次期観光振興計画（案）

# 一般質問

今 利 一

〔市民連合議員会〕

## 医師確保について

**問** 地域枠で入学された医大生の動向と、医局に拘束されない脱医局の医師が多くなってきたと聞く、富良野出身の医大生、医師を把握しているか伺う。

**答** 市が旭医大と富良野協会病院との三者協定により実施している医師養成確保修学資金の貸付者12名は旭医大で地域枠の学生、将来の勤務地として本市を選択してもらえるように取り組みたい。富良野出身の医大生、医師の把握は、広く市民から情報提供を呼びかけ共に進める。

## 介護の現状と課題について

**問** 市では看護職員の養成に係る奨学資金貸付を行っている、介護全体に人材確保の観点から検討すべきと考えるが。

**答** 人口減少が続く中、高齢者介護の人口も増加。一方、介護に携わる人材は、平成30年に入り一層深刻化の状況。当面、介

護職員初任者研修、介護福祉士の実務者研修の助成について事業者と連携し検討していく。

## 難視聴地域、接続困難地域防災について

**問** 被害の状況や災害応急対策の情報の伝達を、ラジオふらの・インターネット・携帯或いはスマホで行われているのが現状。これらが使用出来ない地域がある、対応策を伺う。

**答** 情報伝達の方法については並列化、多重化に取り組んでいる。ラジオふらのは平成31年度は送信所と中継局の整備工事に着手したい。難視聴対策については、集落あるいは、集団を対象に対応を図っている。課題がある場合は調査し検討。



災害情報の伝達を担うラジオふらの

水 間 健 太

〔ふらの未来の会〕

## 市民協働のまちづくりについて

**問** 協働による市民活動の実践の積み上げ状況は。

**答** 連合町内会の防犯灯の維持、資源回収ステーションの管理などの自治活動や、NPO法人山部まちおこしネットワークなど多様な市民団体による地域活動が行われている。

**問** 協働のルールの制度化に向けて、公募型協働事業の仕組み構築と実施が必要と考えるが、見解は。

**答** 新たな市民活動の掘り起こしをしていきながら、公募型協働事業については他自治体の事例等を参考に研究していく。

## 人口減少対策について

**問** 人口の見通しは。

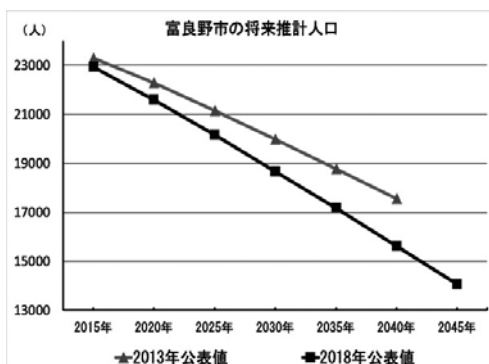
**答** 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が本年3月に公表した地域別将来推計を上回るスピードで人口減少が進んでいくと予想している。平成32年度

からスタートする、次期総合計画の策定に向けて改めて人口の将来見通しを示していく。

**問** 生産年齢人口の中でも、子育て世代の減少率が高くなっているが認識は。

**答** 子育て世代の減少率が高くなっていることは認識している。**問** 上川管内23自治体中、19自治体が乳幼児等医療給付の対象を独自の予算で中学卒業まで拡大している。本市でも、人口減少対策の標準施策として早急に拡大が必要と考えるが見解は。

**答** 子育て支援は総合的な施策が重要と考えている。乳幼児等医療給付の拡大よりも、まずは検診などの予防や相談体制の充実が優先される。



社人研が公表した最新の将来推計人口

黒岩 岳雄

〔雄飛の会〕

観光施策について

問 観光公害（オーバーツーリズム）とその対策は。

答 夏の国道等でピーク時、交通渋滞が発生しているが、通年では市民生活に大きな影響はないものと認識している。外国人観光客に関しては、ゴミの排出方法、交通安全指導等の地域要望について、担当部署で適宜対応している。観光振興には、外国人観光客の拡大の必要性、増加に伴う経済効果の周知など、市民の理解を得ながら受け入れ体制の整備を進める。

問 ブラックアウト時の観光客（滞在客）の検証と対策は。

答 今回の経験を活かし、夏のピーク期や冬の厳寒期に今回と同様の事態が発生した場合を想定し、より実効性のあるものとするため、平成25年の協定に基づき、ふらの観光協会、富良野旅館業組合、北の峰旅館組合等関係団体との連携を強化する。

観光教育について

問 観光教育を通じて地域の理解向上は。

答 「富良野市第3次学校教育中期計画」に基づき、農業、観光環境、芸術など本市の地域資源を活用した特色のある教育を推進している。学習指導要領の改訂により、平成32年度から小学校4年生の社会科において「特色あるまちづくりや観光などの産業発展に努めていることを理解すること」が新たに盛り込まれた。現在の小学校3・4年生の社会科副読本「ふらの」についても、平成32年度からの使用に向けた改訂にあたり、観光分野の内容の充実を図る。



副読本「ふらの」・学校教育中期計画

石上 孝雄

〔民主クラブ〕

除排雪について

問 市民周知と協力体制は。

答 連合町内会長会議、広報ふらの、ラジオふらの、回覧板で行っている。市民からの苦情を受けた場合、現地を確認の上で、説明を行い理解を求めている。

問 除雪組合の連携と課題は。

答 13社あった業者が平成25年には9社に減少、除雪体制が維持できないとの判断から、平成26年より組合を設立し除雪体制を構築している。今年で5年目を迎え、オペレーターの確保、技術講習など除雪体制の確立に向け努力している。今後も市と組合の連携を密に相互協力による除雪レベルの向上を図り、安定的な除雪体制を構築していく。

問 除雪の効率化は。

答 排雪は、市が所有している車両と業者が所有している車両の2班構成で行っている。双方が雪捨て場での混雑と安全に配慮し、排雪ルート、日程を十分

に協議し、ブロック分けを行い、スムーズで効率的な排雪を進めていく。

「ミニニースクール」について

問 現状と課題は。

答 本市では、地域と共にある学校づくりのため、地域との協働を進めている。成果として学校と地域が情報共有を図り、地域の学校に対する支援活動の活性化に繋がり、教育環境が整ってきていると考えている。

今後の課題として、協議会の活動が一部に限られているという意見、効果的な取り組みについての情報提供の要望などから、活動の共有、協議会の交流を深め一層の充実にも努めていく。



市内の除雪作業



# 一般質問

天日 公子

〔民主クラブ〕

## 健康増進ポイント導入について

**問** 市民が楽しみながら進んで健康増進の取り組みができるように、お金をかけない市独自のポイント制度導入について平成27年12月に質問をしており、3年経過したが取り組み状況を聞く。

**答** 健康ポイント制度は、個人の自主的な健康管理を促すインセンティブを提供する取組みとして、国民健康保険の保健事業に位置づけられており、保険者努力支援制度の評価指標にもなっている。来年度以降は、市独自の健康マイレージ事業として、ポイント付与対象事業や特典内容を検討し、市民の健康づくりを支援していく。

## 就学援助医療費の拡大について

**問** 経済的理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校に必要な費用の一部（学用品費・給食費・医療費など）援助

する制度がある。限定された疾病だけでなく、全疾病への拡大は、子育て支援であり、学力向上につながる支援である。援助を必要とする家庭に漏れのない支援であり、実施すべきと考えるが、見解を聞く。

**答** 就学援助は、あくまでも経済的理由によって就学困難と認められる場合に援助することを目的としており、医療費全てを援助対象とすることは、就学援助の目的と異なることになり考えていない。

また、子どもの貧困対策は、教育委員会のみで完結できないことから、市等の各種施策と連携することにより、総合的な推進に努めていく。



富良野市健康ポイント導入は

大栗 民江

〔無会派〕

## 子の看護休暇について

**問** 小学校就学前の乳幼児が病気やケガをした時の看護又は予防接種や健康診断のため父や母が取得できる休暇で、就学前の子が一人の場合は年に5日、2人の場合は10日まで取得できるが浸透していないように感じる。実施状況や両立支援に向けた企業への啓発、支援の考えは。

**答** 育児休業及び看護休暇は法制度化されているが、具体的な制度内容は事業所が運用している。本市の「フラノジョブスタイル」に登録している76事業所の内21事業所が「育休制度あり」と明記しているが取得状況は把握していない。「看護休暇制度あり」の登録企業はない。絞り込み検索機能を付加し、両立支援に積極的な企業の情報を広く発信していく。

## ファミリー・サポート・センターの対応について



富良野市ファミリー・サポート・センター

**問** 日常的・緊急時に誰にもみてもらえない環境下にいる親子が、一人で悩みを抱え孤立とならぬよう病後児に加え病児の事業を取り組む考えは。

**答** 提供会員を増やすための研修の充実、医療機関との連携などにより、受け入れ態勢の充実に努めていく。

**問** ファミサポは、幼稚園や保育所の送迎以外にも、上の子が幼稚園や学校にいつている間、下の子を就労先やセンターでもらう事ができ、企業の福利厚生を利用することが可能なので不特定の就労にも繋がると考えるが内容の周知が必要では。

**答** 活動の充実と利用の促進に向けた周知に努めていく。

後藤 英知夫

〔雄飛の会〕

除排雪対策について

問 富良野維持管理協同組合に委託後の総括は。

答 除雪業者や、高齢化によるオペレーターの減少など、個々の業者の企業努力だけでは除雪体制を維持することが難しいとの判断から、組織化、維持管理組合が設立され、一括発注している。苦情もあるが、一定程度の水準は保たれている。

問 行政が担うべき部分は。

答 市民の理解を深める。組合への助言。緊急を要する危険個所の直営での除排雪等。ロータリー車などの、使用用途・期間が限定されるものは、組合で用意することで、除排雪単価が上がることを予想され、今後も行政で準備していく。

RDF(固形燃料)ボイラーについて

問 自動運転化に向けた進捗状況は。

答 設計を9月末に終了し、10月に施工業者と契約、来年2月末までの工期となっている。

問 RDFボイラーの今後の活用は。また、技術の保護は。

答 RDF熱利用システムが確立することで、市民の分別協力できた固形燃料の「見えるリサイクル」「エネルギーの地産地消」が実現できる。農業ハウスや公共施設等、導入効果が高いと認められた所から、普及を図っていく。

技術の保護については道総研とは、研究協力に関する協定を結んでいる。請負関係業者とは、秘密保持契約(予定)を締結することで、技術の流出防止をしていく。



ハイランドふるのに設置されたRDFボイラー

委員会の動き

総務文教(事務調査報告)

■調査第3号「乳幼児期からの一貫した特別支援教育について」  
平成30年第3回定例会において事務調査の許可を得ました調査第3号について報告いたします。

本市においては、平成29年4月より保育、療育、子育て支援などの業務を担う、こども未来課が教育委員会に移管され、平成30年3月に「富良野市第3次特別支援教育マスタープラン」を策定、子ども達への一貫した支援体制づくりに向け取り組んでおります。

本委員会では、市内民間施設の子童発達支援センター及び放課後等デイサービスの取り組みについて概要説明を受けるとともに、現地調査を行い、本市における特別支援教育体制及び早期発見、早期の取り組み状況について調査を行ってきました。

また、栃木県那須塩原市及び千葉県南房総市における特別支援教育の取り組みについて、先進地の事例調査を行ってきました。

た。

本市の特別支援教育においては、支援体制の充実に向けて取り組まれているものの、子どものライフステージが変わる際、一旦、支援が途切れてしまうこと、課題があると考えているところであります。

子ども達が、安心して地域で学び、育ち、社会で生活できる基盤を作り、将来において生きる力を身に付けることができるよう、適切な支援を保健福祉分野との連携について、議論をより深める必要があることから、継続調査を求めるところであります。

以上、申し上げます、総務文教委員会からの報告とします。



市内民間施設にて概要説明



## 委員会の動き

### 総務文教(都市事例調査報告)

総務文教委員会より、都市事例調査について報告します。

#### 栃木県那須塩原市

平成27年4月に「子ども未来部」を設置し、市長部局と教育部局が所管する子育て施策を一元化した、子育て支援に関する質の高いサービスの実現を目指し取り組んでいます。その取り組みの一つに「那須塩原市発達支援システム」があります。出生から20歳まで、関係機関が連携を図り、子どもと保護者を支えるため、総合的かつ計画的に推進していくものです。

那須塩原市の発達支援システムは、より具体的にライフステージに応じた支援を繋げるため、縦横の連携とデータベース化を行い支援を徹底していました。

就労期までの支援を見据えた背景には、保護者が亡くなった後の子どもの生活に不安を抱えている事があり、不安解消のためシステムの構築を目指したとのことでありました。

#### 千葉県南房総市

### 市民福祉(事務調査報告)

南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。

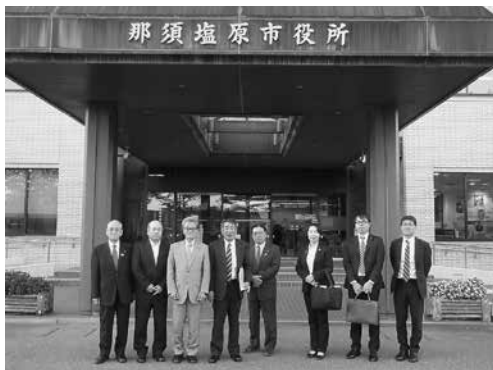
南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。

南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。

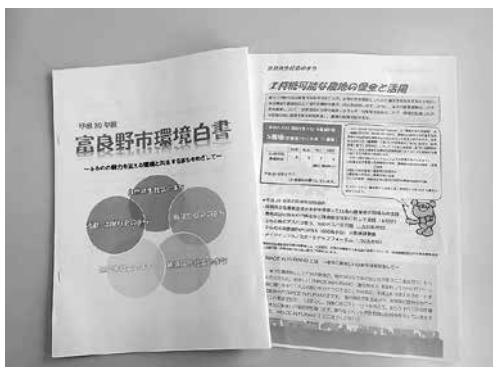
南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。

南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。

南房総市では、自己の可能性を伸ばす教育の推進を目指して、0歳から15歳までの「幼保小中一貫教育」の推進が進められています。その15年教育の具体的な実践項目①学力の向上 ②南房総学推進 ③不登校児童生徒ゼロ、3年間での実現 ④就学前保育、教育子育て支援の充実の4項目を挙げ、あらゆる角度からのサポート体制が確立されています。平成25年には、子ども教育課を新設して業務を行う教育係と支援業務を行う支援係に分かれ、専門チームによる早期支援に取り組んでいます。特別支援と不登校の情報を早期に見出し、対策する仕組みは重要であると感じました。



栃木県那須塩原市



富良野市環境白書

市民福祉委員会より、第3回定例会において事務調査の許可を得ました調査第5号「環境施策について」調査の経過を報告いたします。

本委員会では、担当部局に資料の提出と説明を求め、富良野市が取り組む環境施策について調査を進めてまいりました。

本市では、平成23年3月に「第2次富良野市環境基本計画」、「富良野市地球温暖化対策実行計画」を策定し、望ましい地球環境の将来像を設定し、その実現のために5つの基本目標を掲げて、平成32年度の計画達成に向けて、さまざまな施策を展開しているところであり、

「ゴミの14種分別」では90%を超えるリサイクル率を達成し、全国でもトップクラスの取り組みであります。また、再生エネルギーの普及に努めているところでもあります。これらの取り組みは、持続可能なまちづくりを目指すうえで、今後も継続することが望まれます。

さらに、先進的に進める重点プロジェクトとして「環境・産業・観光循環プロジェクト」を位置付けています。

これは富良野の魅力を支える基盤である環境・産業・観光の分野が互いのつながりを強化し、相乗効果によって生まれる好循環のサイクルを構築するものがあります。

これらの基本目標を達成させる際の課題を検証するとともに、行政視察を通じて、先進地の事例を参考として、更なる調査を進めたいことから、継続調査をしてまいります。

## 経済建設（事務調査報告）

## ■調査第6号「富良野市の労働力の実態と対策について」

経済建設委員会より第3回定例会において許可を得ました、調査第6号「富良野市の労働力の実態と対策について」の調査経過について報告致します。

本市においても少子高齢化社会を迎え人口減少が進み国立社会人口問題研究所の予想では、2045年に1万6千人台と予測され、今後も持続的かつ安定的な経済の発展には労働力確保対策が求められています。

市の労働力確保対策として、フラノジョブスタイル、高校生向け企業説明会、Uターン出身者を優遇する企業求人情報の紹介や農業ヘルパーの確保や外国人実習生制度、女性労働の新規確保への取り組み等、担当部局から資料と説明を求め、実態把握に努めてきました。

また、現場の意見を把握する目的で、ふらの農業協同組合における労働力確保、外国人実習生の実態、農作業ヘルパーの確

保対策の状況や課題など意見交換を行いました。

さらに富良野商工会議所においても、意見交換を行い、人口減少による生産年齢の推移、会員企業における人材確保の取り組み、他会議所の取り組みについて説明を受け、本市の抱える課題と取り組みについて意見交換を行いました。

本市は道内有数の生産規模を誇る農業が基幹産業であり、豊かな農村景観は観光業とも相まって国内有数の観光地として国内外問わず多くの方が訪れ、業種を問わず労働力が不足しています。今後は都市事例調査を行い、さらに調査を深めたいことから継続調査といたします。



ふらの農協との意見交換会

## 議会活性化推進特別委員会報告

## ■ICTを用いた有効的な活用について

平成29年3月に設置された本委員会は議会基本条例に基づき、意見の収集と共有、情報発信、議会の透明化、議会資料の共有化、議会内部の効率化など調査した結果を報告する。

運用体制のルール策定について。富良野市議会ICT推進にかかる申し合わせ事項を取り決める、基本的な考え方と機器の利用に係る内容、ペーパーレス化の考え方、議会内での情報伝達危機管理上の緊急連絡、政務調査活動等を整理し策定した。

機器活用における講習会の実施検討について。議員各位が利用している通信環境や使用機器が異なるため、ICTの活用に必要な講習会を随時開催することで、基本的な知識と手順を会得し進化する通信環境に順応できるスキルを習得することが、今後の様々な機器の利活用に必要である。データベースと使用機器について。ICT利活用

のシステム構築の必要性やスケジュール管理と議会委員会の開催告知・例規集や議会議事録などのデータ化は、将来的に構築すべきである。また、使用機器は、現在、個人の機器と通信環境を借用しているが、総合的にシステム構築に伴って必要な個人の機器や通信環境について検討をされたい。

議場および委員会室等のICT機器の取り扱いについて。

将来の議会のあり方を鑑み熟議・結審に必要なモニターや情報提供・公開に必要な機器など導入検討が必要である。今後の予算計画について。当面、所有物や通信費に関する費用計上はせず、システム構築時などの予算が必要とした時点で、合意形成が図れる内容を明らかにした上、計画化すべきである。

総論として。委員会では常にICT導入ありきでなく、議会改革の一環として質疑の充実、情報の共有化と開示、議会機能の効率化を軸に議論を重ねてきた。今後も様々な課題解決に向けて議会改革の推進を図るべきである。以上、最終報告とする。

## 議会運営委員会報告

本委員会は、先の第3回定例会において「富良野市議会基本条例」に基づいた議会活動の検証結果について報告し、C・D評価となった項目については改善に向けて、さらに協議を行うこととしました。

また、第18条に定める「議員定数」については、評価の該当なしとするE評価としましたが、来年の改選期を迎えるにあたり、その議論経過を市民に伝える必要があるとの判断から、議会運営委員会として協議し、確認しました。

定数について議論を深めた中で、富良野市は広範囲にわたる地域を抱えているため、地域の代表として市民の声を市政に反映すること、市政を市民の側に立った方向へ導くこと、さまざまな角度で市政をチェックする機能を堅持することの必要性について意見が出されました。しかし、いつの時代においても議員定数削減の意見があるのも事実であり、議会が果たすべき役

割をしつかりと議論したうえで、定数を削減した場合のメリット、デメリットなどを真摯に議論する必要があります。

議員定数については、社会情勢の変化などを考慮し、市民の意見を反映するとともに、議会が持つ議事機関としての機能と行政監視機能を確保することを基本に、市民の声を聴く場、議論する場等を設定し判断していくべきであり、まずは議会改革を今後も積極的に進めることが重要である判断し、本委員会として、次の市議会議員選挙における定数は現状維持の18とすることと意見の一致をみた次第であります。

以上、議会運営委員会からの報告と致します。



議場風景

## 決算審査特別委員会報告

決算審査特別委員会は、第3回定例会において設置され、認定第1号より認定第9号までの平成29年度富良野市一般会計をはじめ各特別会計歳入歳出及び公営企業会計の決算について審査を付託され、閉会中、継続審査を行いました。

平成29年度決算歳入総額は、一般会計134億3,474万円、特別会計（国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、公設地方卸売市場事業、公共下水道事業、簡易水道事業）66億1,429万円です。

歳出総額は一般会計132億4,620万円、特別会計64億4,286万円で、実質収支総額は3億4,719万円です。  
企業会計は水道事業営業収益4億6,385万円、ワイン事業営業収益3億5,554万円です。

決算審査にあたっては、9月15日に審査日程、審査資料の検討、並びに決算内容について会計管理者より総括的に説明を受

け、11月7日、8日、9日の3日間にわたり各所管部ごとに審査を行いました。

審査では、関係する職員の出席を求め、歳入の確保や事務事業の執行が適正かつ効率的に行われたかなど、決算審査の着眼点に基づいた委員による質疑が行われ、それに対して説明や答弁をいただき、慎重に審査を進めました。

特に平成29年度は「第5次富良野市総合計画 後期基本計画」の2年目として、また「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた目標達成への事業推進したことから、それに関連する事業に対する質疑が活発に行われるとともに、これまで継続して実施してきた事業に対する実績、効果、検証等に関する多くの質疑がなされ理解が深められたところがあります。

審査の結果、認定第1号より認定第9号までの9件について、全会一致で「認定すべきもの」と決定しました。



# 決算審査特別委員会で行われた質疑

◇決算審査特別委員会で行われた一部の質疑は次のとおりです。

## 「出産祝品贈呈事業について」

**問** 当初予算170万円の新規事業だが、実績が33件にとどまっているが、周知方法や分析は。

**答** 富良野市内で出生されたお子さんが、1歳になるまでの期間で写真を撮影して、贈呈する事業。事業は今後も継続するが、内容は、今後の状況を見て検討していきたい。

## 「養護老人ホーム寿光園運営管理事業について」

**問** 指定管理を受けている寿光園が800万円の赤字となり、今後に支障をきたすのでは。

**答** 平成29年度分については、赤字の補填は行わないが、今年度については、ほぼ定員を満たす入居者数を維持している。

## 「へき地医療対策事業について」

**問** 山部・東山地域の最重要施策と捉えるが、地域からの意見の吸い上げ、利用実態、受診率の傾向について

**答** 平成27年から診療所を運営しているが、利用者の声は把握していない。患者数の状況は平成29年度で延べ1,441人、

1日平均は12.3人。

## 「ワイン事業について」

**問** 原料の確保は改植、新植、生産者の掘り起し等、結果が表れてきているが、技術向上や生産意欲を高める施策は。

**答** 平成29年度は農家の方々の研修制度を作った。先進地で栽培方法を学ぶことで、モチベーションが上がったと聞いている。

## 「農業担い手育成事業について」

**問** どのくらいの面積が集積されたのか。

**答** 山部で3.5ha、東山は3件で、1.6、3.4、1.9haとなっている。大きさはバラバラだが、コンパクトな経営を目指すのに適した土地。

## 「観光PR動画作成事業について」

**問** 動画を4本作成し、ターゲットは外国人。コンシェルジュフラノで配信しているが、どのように活用するのか。

**答** 冬のインバウンドが対象なので、富良野以外の札幌及び日本政府観光局に動画を提供し、発信をお願いする。

## 「まちなか居住促進助成事業について」

**問** 35件分の予算があつたが、実績は3件となっている。事業の乖離の考えは。

**答** 対象地区の空き家等の調査も行い算出した。広報ふらの、ホームページや市内不動産関係者を訪問してPRをしてきたが、PRの手法や助成要件等も見直しが必要であれば検討したい。

## 「小中学校歯科衛生事業について」

**問** 中学校の実施率が下がっている理由について

**答** 希望を取って実施しているが、中学校に行く希望者が少なくなる状況。希望者を増やすような周知の方法を考えたい。

## 「青年活動活性化事業について」

**問** 青年塾の会員数の増減、活動実態、次年度に引き継ぐための検証について

**答** 昨年5月で男性16名、女性5名の21名で前年より4名減少。活動実績はへそ踊り、サンタの宅急便、ワインぶどう祭りなど青年が自主性を持ちながら活動をしており、地域のリーダーに

なる人材を育てていきたい。

## 「ふるさと納税推進事業について」

**問** 平成29年度において富良野市が全国から頂いた寄付の中で、使えるようになった財源は。

**答** 基金に積み立てた額が3,786万7,000円で、1,337万6,870円を事業費に充当した。

## 「島ノ下地区コミュニティカー運行事業について」

**問** 当初予算が200万円、決算額は10万円。課題と今後の対策等は。

**答** 平成29年3月で駅が廃止されたことから、生活の足を守るという目的で、運行に取り組んだ。通学での利用も想定していたが、お年寄り1人、58回の利用となった。

## 「出合い総合サポート事業について」

**問** 昨年度実施して、今後の課題について

**答** 数組がマッチングしてきているが、婚活に対して一歩踏み出せない方々の後押しが出来たことが数字よりも大きな成果だと考えている。

## 議会報告会

### ◆市内15会場で議会報告会開催

昨年の10月から11月に、各会場で第3回定例会の報告を行い、次の事項について意見や要望、質疑が幅広く交わされました。

住宅の民間委託、民生委員、まちなか居住促進など

#### 〔山部福祉センター〕

・11月6日、9名出席

補正予算、議会活性化特別委員会、会派政党制、災害対策、新庁舎建設、消防職員の待遇改善など

#### 〔栄町コミセン〕

・11月7日、13名出席

富良野道路、議会傍聴、農業次世代人材投資事業、災害対策、北の峰・御料地区の開発など

#### 〔東春コミセン〕

・11月8日、7名出席

プレミアム付き商品券、新庁舎、議会改革、災害対策、市町村合併、福祉予算、スマート農業、教育など

#### 〔扇山地区公民館〕

・11月9日、2名出席

高齢者福祉、災害対策、新庁舎、新規就農など

#### 〔南コミセン〕

・11月13日、10名出席

歩道、議員定数、労働力不足、市職員のサービス、医師不足問題、市庁舎建設、ハイランドふらののボイラーなど

#### 〔育良会館〕

・11月14日、17名出席

固形燃料ボイラー、光回線、

スマート農業、車輛購入、医療、庁舎建設、労働力不足、高規格道路、地震に対する対応など

#### 〔朝日会館〕

・11月16日、5名出席

協会病院の医師不足、固形燃料ボイラー、庁舎建設、災害時の避難場所、空き家・市営住宅、JR問題など

#### 〔東山公民館〕

・11月19日、14名出席

RDFボイラー、災害対策、スマート農業、鳥獣被害対策、コミュニティカー、人口減少問題など

#### 〔麓郷集落センター〕

・11月22日、31名出席

防災無線、光回線、新庁舎、合同墓、防災、文化会館、避難勧告FAXなど

#### 〔鳥沼会館〕

11月26日、12名出席

補正予算、新庁舎建設、ごみ分別化、RDF、民生委員、環境整備、防災マップなど

※この中で出された行政に対する要望や質疑については持ち帰り、市担当に伝達・確認後、会長を通じて回答しています。

## 可決された 意見書

◇第4回定例会に議員提案された意見書は次の1件です。意見書は可決後、直ちに関係機関に送付しました。

### ●日米物品貿易協定交渉に関する意見書

(宇治 則幸議員外6名)

北海道農業は、重要品目である米・麦・大豆・馬鈴しょ・乳製品・牛・豚肉を中心に安心で安全な農畜産物の安定供給に重要な役割を果たしてきている。

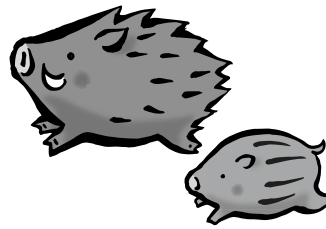
農産物輸出大国との経済連携交渉が北海道農業に大きな影響を及ぼし、TPP11協定は本年12月30日に発効し、日EU・EPA協定も来年2月に発効される見通しとなっている。

輸入自動車の追加関税を見送る代償として、物品貿易協定交渉の開始に合意したことは、一層の農畜産物の市場開放となる恐れがある。

国は毅然とした姿勢を貫き、安易な農畜産物関税協議は行わないことを求める意見書。

## 11月

- 5日・議会報告会（瑞穂コミセン）
- 6日・決算特別委員会  
・議会報告会（北の峰コミセン・山部福祉センター）
- 7日・決算特別委員会  
・代表者会議  
・議会報告会（栄町コミセン）
- 8日・決算特別委員会  
・議会報告会（東春コミセン）
- 9日・市民福祉委員会  
・議会報告会（扇山地区公民館）
- 13日・議会活性化推進特別委員会  
・議会報告会（南コミセン）
- 14日・議会報告会（育良会館）
- 16日・議会報告会（朝日会館）
- 20日・市民福祉委員会  
・経済建設委員会  
・代表者会議
- 22日・議会報告会（麓郷集落センター）
- 26日・議会報告会（鳥沼会館）
- 28日・第4回定例会告示
- 29日・第3回臨時会  
・議会運営委員会  
・新庁舎建設特別委員会  
・議会活性化推進特別委員会  
・議会とまちづくりトーク
- 30日・代表者会議  
・議会運営委員会



## 12月

- 5日・第4回定例会（1日目）
- 12日・第4回定例会（2日目）  
・新庁舎建設特別委員会
- 13日・第4回定例会（3日目）  
・議会運営委員会  
・議会広報特別委員会
- 14日・総務文教委員会
- 18日・第4回定例会（4日目）  
・代表者会議  
・市民福祉委員会
- 27日・総務文教委員会  
・議会広報特別委員会
- 28日・仕事納め

## 1月

- 7日・仕事始め
- 11日・市民福祉委員会
- 21日・新庁舎建設特別委員会  
・議会広報特別委員会  
・代表者会議
- 22日・市民福祉委員会
- 24日・経済建設委員会
- 29日・総務文教委員会  
・議員研修会
- 30日・市民福祉委員会

●各委員会では議長の許可を受け、閉会中次のとおり都市事例調査を行います。

### ■都市事例調査

委員会名	調査件名	調査地	調査日
市民福祉委員会	環境施策について	熊本県水俣市・小国町	1月14日、17日
経済建設委員会	労働力確保について	岩手県釜石市 秋田県鹿角市	2月上旬

## 編集後記



▼新年あけましておめでとうございます。

▼皆さんにとって昨年はどんな年でしたか？昨年の漢字一文字に選ばれたのは「災」でした。北海道でも大地震、ブラックアウト、本当に想定外の出来事でした。しかし、想定外は通用しなくなってきました。あらゆる事を想定内として対策を講じなければならぬと感じました。今年は災害のない穏やかな一年であることを願いたいです。

▼初夢は見られましたか？「一富士二鷹三茄子」とよく言いますよね。続きがあるのはご存知ですか、「四扇五煙草六座頭」と言うのがあるようですが、今年たてた目標・夢に向かってまい進して頂きたいと思います。

▼平成も4月30日で終わります、5月1日から新元号に変わりますね。

▼あなたの予想する新元号はなんですか？

議会広報特別委員会

委員 小林 裕 幸